



令和7年度 学校だより 9月号
た〜んむ



大山小学校
児童数 571名
学級数 26 クラス
発行者
校長:比嘉 秀次

Ⅰ 【9月の主な行事予定】

2学期もよろしくお願ひします。

- 1日(月) 人権の日
- 2日(火) スクールカウンセラー来校日
- 3日(水) 離島体験保護者説明会 15:30学年広場
- 5日(金) 旧盆(ナカビ) **学校休業日**
- 9日(火) 授業参観 2校時~3校時
LGBT講演会(2年・5年)
修学旅行保護者説明会 3校時学年広場
スクールカウンセラー来校日
- 10日(水) 福祉講話(4年・2校時)
委員会活動
- 12日(金) 学推集会②
2年生ICT支援授業
- 15日(月) **敬老の日**
- 16日(火) スクールカウンセラー来校日

- 19日(金) 児童集会
- 23日(火) **秋分の日**
修学旅行1日目(6年)
- 24日(水) 修学旅行2日目(6年)
- 25日(木) 修学旅行振替休日(6年)
- 26日(金) 読み聞かせ
- 29日(月) 大山っ子ふりかえり
- 30日(火) CAP講話 5校時・6校時(保護者)
スクールカウンセラー来校日

ふるさとを愛し、未来を拓く大山っ子

2学期始業式



8月27日(水)2学期始業式
行われました。学年代表として5
年生の喜如嘉梨花さん、比嘉まりなさん、儀保侑依
奈さんは、2学期の行事へ向けての意気込みを発
表していました。

大山っ子の活躍!!



1学期の間、野球、水泳、サッカー、バレーボール、バスケットボール等、数々の大会で優秀な成績を修め、キラキラと輝いている大山っ子の子どもたちです。

宜野湾市スポーツ少年野球大会で大山ファミリー野球チームが見事優勝を勝ち取りました。久しぶりの優勝旗にとっても嬉しさと同時に大山ファミリーの子どもたちの成長を感じた瞬間でもありました。おめでとうございます。



大迫力!!大山大綱引き



8月3日(日)大山小学校グラウンドで「大山大綱引き」が行われました。大山自治会を中心に地域の方々の準備によって、地域の伝統行事に子どもたちがたくさん参加していました。また、大綱引きのポスターを描いてくれた多くの児童の表彰式も行われました。今年度は、旗頭体験や子どもたちによる綱引きもプログラムに取り入れられ、大盛り上がる「大山大綱引き」となりました。300年以上も昔から受け継がれてきた「大山大綱引き」、子どもたちが体験を通して感じたこと、これから先も受け継いでほしいと願っています。

1年生タブレットデビュー

GIGAスクール構想における児童一人一台端末を活用した学びに向けて、本校1年生でもタブレット活用がスタートしました。タブレットの取扱い方、電源の入れ方、ログインの仕方、写真の撮り方等、はごろも学習センターICT支援員の仲村渠さんがゆっくりと丁寧に操作方法を教えてくださいました。また、6年生の児童が優しく丁寧に教えている姿がとても微笑ましい光景でした。幸せ感の一つ「してあげる喜び」です。



「同意って？」特別授業

本当は嫌なのに「うん」と行ってしまったり、無理やり「いいよ」といわせてしまったり経験は誰にもあるのではないのでしょうか。本校の養護教諭と6学年担任でチームティーチングを組み「同意」について考える特別授業を行いました。



人によって「大丈夫」や「嫌だ」と感じる境界線はみんな違います。積極的な「同意」なのか消極的な「同意」なのかを考えるきっかけを通してよりよい人間関係を築くスキルは将来にわたって力になると思います。

夏休みの自由研究・工作がそろってきました。



毎年、子どもたちの自由な発想で形にしていく自由研究。今年も多種多様な自由研究や工作等が集まりました。ご家庭でのお子さんのサポートにもありがとうございました。保護者の皆様も授業参観で来校した際には、ぜひ子どもたちの作品に目を凝らしてご覧ください。

トイレのスリッパから学ぶこと！

子どもたちの学ぶ姿を毎日観察すると同時に各フロアのトイレのスリッパの状態を欠かさず見ます。スリッパが散乱していたり、きちんとそろえられていたり、また、使い終えた後、並べている児童を見かけたりします。本当に素敵な気づきのある子どもたちがいます。このように、その状況を目で見て「気づき」、頭で判断して、体を動かして行動に移す力は、自分の将来に役に立つ力の一つになるかもしれません。大切に価値を認め伸ばしていきたいと思ひます。



総合的な学習の時間 4年 福祉 アイマスク体験

4年生では、総合的な学習の時間で「福祉」の学習を行っています。9月10日に行われる視覚障がい者の講師によるお話につながるため「アイマスク」体験を行いました。自分たちでアイマスクをして学校を探検する体験をすることで、「不安」「怖さ」を感じ取ることができます。その感覚を和らげるのが伴走支援の役割があることを学んでほしいと願いながら子どもたちの様子を参観してしました。インクルーシブ共生社会を実現できる子ども達の学びを応援したいと思います。

